

くすのき広場

この広場には美しい楠の御神木があります。象頭山にある家に帰る前に、楠の下で天狗が休憩したという言い伝えがあるこの広場で、皆様もどうぞおくつろぎください。

御神木の楠

この大木は神聖なるもので、神様が住んでいると言われていました。酒造家は何世紀にもわたり、この木を崇めてきました。専門家によると、この木は平安時代（794～1192年）から立っていると推定されています。金刀比羅宮はもともと仏教寺院として建てられ、明治期までは仏教と神道、両方の信仰の対象となっていました。そして、海の神様と、修験道の神秘的儀礼と関係のある神道の神である天狗、両方を人々は崇拝しました。元来、天狗は破壊的な悪魔であると考えられていましたが、やがて山と森を守る精霊と見なされるようになりました。災いから人々を救った後、象頭山に帰る前に天狗がこの楠で休憩したという言い伝えがあります。

楠の木陰でのんびりし、晴れた日には木の葉から漏れる光を楽しみ、そよ風に葉が揺れるのを感じておくつろぎください。酒造りの守木であるこの楠から採取した天然酵母を醸した純米酒もごさいます。